

平成30年度 公開研究会でのご質問への回答

11月30日に本校で開催した公開研究会には、県内各地や県外からも多くの先生方にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

また、アンケートへのご協力もありがとうございました。そこで、以下にご質問への回答を記載させていただいております。ただし、ご質問への回答は、本校での実践を基に考えた意見ですので、他校での実態に応じて工夫・改善を図る必要があるかと考えております。

不明な点等がありましたら、南九州市立松ヶ浦小学校までご連絡ください。

Q1 30人以上の学級でどのように生かしていけばよいですか。

A1 大規模校でも本校の実践のようにキーワードを活用した学級会や児童総会等を実践されている学校もあります。本校の指導の流れは以下のようになっています。

まず、学級会のオリエンテーションを開き、「学級会が何のためにあるのか」を指導します。

次に、学級活動の時間に「学級会における話合いの仕方（キーワードの作り方・提案理由の大切さ・キーワードを活用した発表の仕方等）」を指導し、簡単な議題（「みんなで遊ぶ日の遊びを決めて、学級の仲を深めよう」等）で模擬的な話合い活動を教師主導で行います。こうすることで、少しずつ学習過程にすることができるのです。

そして、学級会グッズ（議題箱・議題カード・話合い活動カード等）を準備し、話合い活動を繰り返し実施していく中で、話合いの仕方や折り合いの付け方を適宜指導していきます。

※ 本校ホームページの「研究成果物」を参考にしていただけると幸いです。

Q2 友達同士でなかなか意見の折り合いを付けることができない現状です。研究紀要に「折り合いの付け方」もありましたが、それをどのように指導しているのですか。

A2 子どもたちは、折り合いの付け方を知らなければ意見を収束することができず安易に多数決で決めてしまいがちです。

そこで、本校では、学習過程の中の「まとめる」タイムで、「折り合いの付け方」を指導しています。初めは、教師が折り合いの付け方を指導しました。そして、学級会等を繰り返し実施していくことで、子どもたちも少しずつ折り合いを付けることができるようになってきました。折り合いを付けることができた場合は、必ず価値付けるようにしました。そうすることで、学級全体で「折り合いの付け方」を学ぶことができます。

Q 3 低学年において自発的に議題が出てきますか。出てこないときの手立てがあれば教えてください。

A 3 低学年では、自発的な議題はあまり出てこないのが本校の実態です。そこで、教師が帰りの会等で議題を呼び掛けたり、子どものつぶやきや日記等で議題になりそうな内容を提案したりするようにしています。つまり、教師の指導のもと一緒に出したり、触発されて出そうと思ったりしています。

※ 『基本的な学級会の仕方』シリーズ「初めての学級会オリエンテーション」編 (YouTube) をご参照ください。

Q 4 計画委員会を昼休みに行えない実態の場合、例えばどのような時間で計画委員会の場を確保できるか。

A 4 本校では、基本的に昼休み時間に計画委員会を実施しています。しかし、昼休み時間を全て計画委員会に当てるのではなく、20分～25分間と時間を決めて活動するようにしています。

さらに、本校の中・高学年では「計画委員会のスケジュール」を教師が作成し、子どもたちだけで進めることができる活動内容については、休み時間や宿題等で取り混ぜるようにして、昼休み時間を確保するようにしています。

しかし、子どもたちだけで進めていくには計画委員としての経験値が必要です。そこで、学級会のオリエンテーションを兼ねて学級活動の時間に学級全体で議題を選定（第1回計画委員会の内容）したり、キーワードや提案理由（第2回計画委員会の内容）を考えたり、学習過程（第3回・第4回計画委員会の内容）を確認したりしたこともありました。こうすることで、学級全体で計画委員としての経験値を高めることができると考えています。

また、発達の段階（特に低学年）等に応じて計画委員会の活動内容を簡素化（例：キーワードの設定のみ）し、教師が進める場合もありました。

Q 5 こだわりが強く、自分の好き嫌いで絶対にゆずらないと言い張る子どもを納得させるためには、どのような手立てが考えられるか。

A 5 学級会とは、「学級をよりよくしていくために自分もみんなもよいと思う意見を決める時間」だということを最初に確認しておくことが大切です。

また、キーワードを活用することで論点がずれることなく、自分勝手な理由で意見を定めることがなくなると考えています。

しかし、子どもの中には自分の意見にこだわりをもっている場合もあります。そのような場合は、「その子の考えも大切にしたい意見を考えることができないか。」などと問い返し、その子の考えも認めながら、折り合いを付けられないか考えさせ、そのような姿が見られたらタイミングよく称賛し価値付けることも時には必要だと思えます。

Q 6 学級活動で身に付けた力等が、他教科や普段の生活の中で転移した場面があれば、その波及効果を知りたいです。

A 6 学級活動を充実させることで、他教科等に以下のような波及効果が見られました。

- ① よりよい人間関係が築かれ、主体的に学び合う雰囲気がつくられ、学習意欲が高まってきました。
- ② 自分の考えに理由を付けて筋道立てて発表することができるようになり、批判的な質問をしたり、互いの考えを認めたりする学びの姿勢も見られるようになりました。
- ③ 「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」の慣れ親しんでいる流れでグループ活動等を行うことで、効率的且つ主体的に対話活動を展開することができるようになりました。
- ④ 学級会で決まったことを実践し、振り返る活動を繰り返し実施したことで、学校行事や学校生活の中で子どもたちの自発的・自治的な姿が多く見られるようになってきました。

※ 特別活動の波及効果については、国立教育政策研究所が作成した「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動」にも詳しく書かれておりますので、ぜひご覧ください。<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

Q 7 立って発表させていなかったのはどうしてですか。

A 7 本校では以下の三つの理由から学級会や代表委員会、児童総会においては座ったまま発表してもよいと指導しています。

一つ目の理由としては、発表が苦手な子どもも座って発表させることで気軽に自分の意見を発表することができると考えているからです。

二つ目の理由としては、座って発表させることで短い時間に多くの意見を交流することができると考えたからです。

三つ目の理由としては、本校のような過小規模校の学校では立たなくてもどの子が発表しているか把握することができるからです。

しかし、話し合いのスキルも十分高まってきているので、今後は他教科同様、立たせて素早く自分の意見を発表できるように指導していく予定です。

Q 8 キーワードの決め方は、どのようにしているのですか。

A 8 説明すると少し長くなりますので、本校ホームページもしくは YouTube に掲載・投稿してあります『基本的な学級会の仕方』シリーズ「キーワードの作り方」編をご参照ください。

Q 9 短冊が何で作られているのか教えていただきたいです。

Q 9 短冊は100円ショップ等で販売しているカラーボードにホワイトボードシートを貼り付けたものを同じ大きさにカットし、裏面に磁石を貼り付けています。

Q10 他教科の話合い活動の様子を教えてください。

A10 発達の段階にもよりますが、学級会等で話合い活動の学習過程を何度も繰り返し学習していれば、どの教科等においても磨き合う（練り合う）時間では、ほぼ「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」の流れで話し合うことができます。ただし、他教科等で話合い活動を行う際にも、十分な話合い活動の時間が確保されていることや、まとめる際のよりどころ（視点等）を教師が事前に示したり、適宜指導したりすることが大切になってきます。話合い活動に入る前に話合いの目的、視点、方法が大切になります。本校は、この中の視点と方法について話合い活動の経験が活かされていると考えています。

**多くのご質問本当にありがとうございました。
先生方の学校の教育活動に少しでも本校の研究
が役立てれば幸いです。**